

(10)九州



九州地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

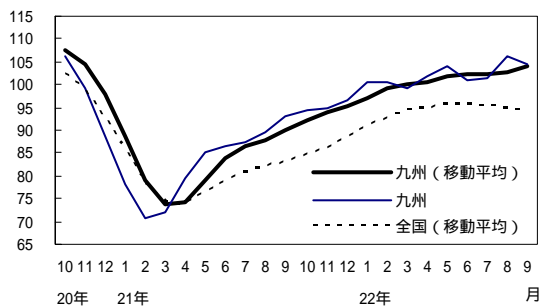
	前回(平成22年8月)	今回(平成22年11月)	
住宅建設	減少	大幅に増加	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

電子部品・デバイスは、ロジック、メモリなど国内向けデジタル家電用モス型計数回路等の需要の低下に加え、製品単価の下落を受け、減少した。輸送機械は、政策効果の影響から増加した。食料品・たばこは、堅調な清涼飲料・ビールを中心に増加した。一般機械は、堅調な一般用蒸気タービンや半導体製造装置、反応用機械など国外向け機械を中心に、増加した。化学は、季節性医薬品の減産から、医薬品を中心に減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

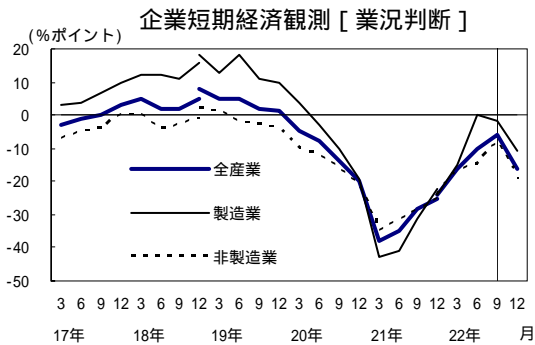
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6	7~9	7~9	7~9
		月期	月期	月期	月期
電子部品・デバイス	15.6	5.0	3.1	2.9	11.1
輸送機械	15.4	3.4	3.7	4.7	37.9
食料品・たばこ	10.6	2.0	1.4	2.2	5.4
一般機械	10.6	13.1	7.9	7.0	1.9
化学	8.2	3.0	3.7	0.0	2.3
鉱工業	100.0	2.1	1.7	3.0	1.2

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

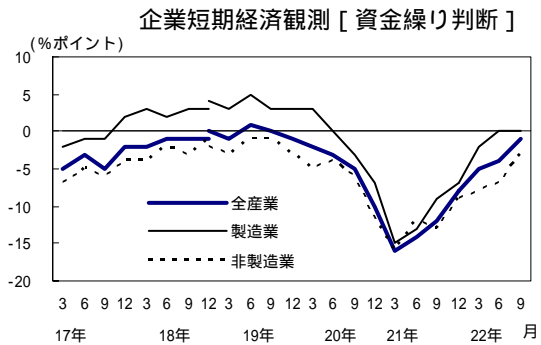
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

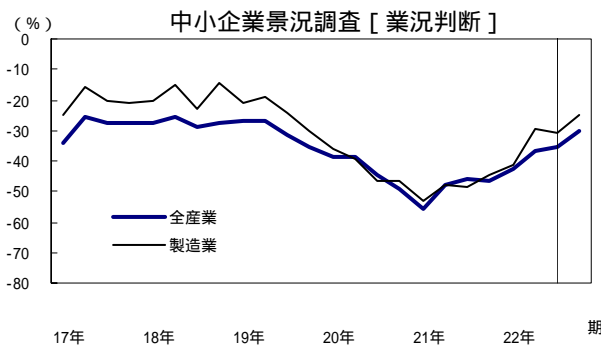
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年12月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「輸入家具の仕入価格は円高の影響で2～3割安くなり、価格も改定した。しかし、消費意欲の低迷のためか、販売は3か月前と比較して横ばいか若干のマイナスとなっている。この状況は今期4月以降続いているおり、景気は明らかに停滞気味である(家具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

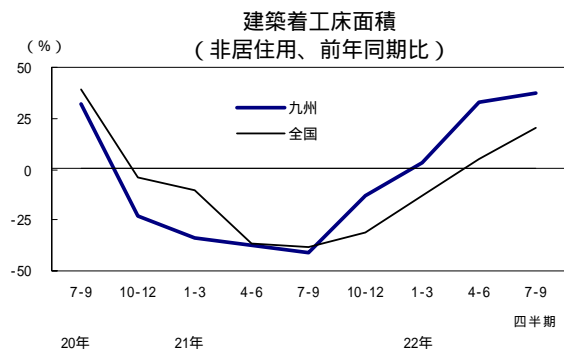
(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	16.6	15.0(2.2)
製造業	38.4	24.4(6.5)
非製造業	1.6	10.5(0.0)

(備考)1.()は前回(6月)調査比修正率。

2.21年度実績はリース会計非対応ベース、22年度計画はリース会計対応ベース。



2. 需要の動向

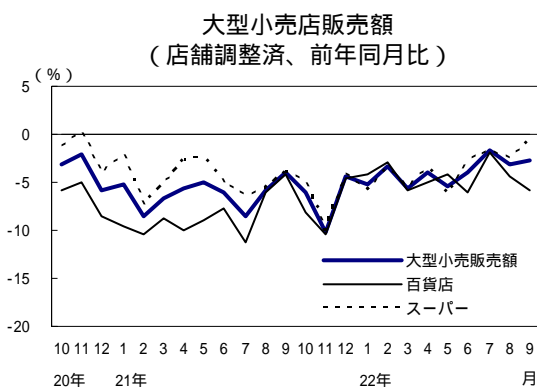
(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

大型小売店販売額

百貨店は、7月は梅雨の影響から中旬までは低調であったが、梅雨明け以降、衣料品や飲食良品の売上が増加し、前年同期比の減少幅は縮小した。8月は、猛暑の影響から客足が鈍く、特に初秋物衣料品を中心に低調であったことから、前年同期比の減少幅は拡大した。9月は、厳しい残暑による来客数の低迷から、秋物衣料品を中心に低調であり、前年同期比の減少幅は拡大した。なお、日本百貨店協会によると、福岡地区の10月の売上高は、前年同月比で2.9%減、福岡を除く九州・沖縄地区の10月の売上高は、前年同月比で0.3%減となっている。スーパーは、猛暑の影響から初秋物衣料品など衣料品が不振であったが、飲料・酒類など飲食料品やUV対策商品など夏物商品を中心に改善がみられ、前年同期比の減少幅は縮小した。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「9月は猛暑の影響で秋物の動きが鈍かったが、今月に入り好調に動いている。しかし、売上が前年を超えるまでの勢いはない。月ごとに凸凹はあるが、通期でみた場合、上向いているとは言えない(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



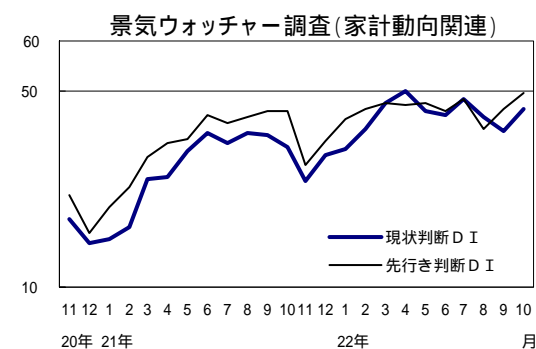
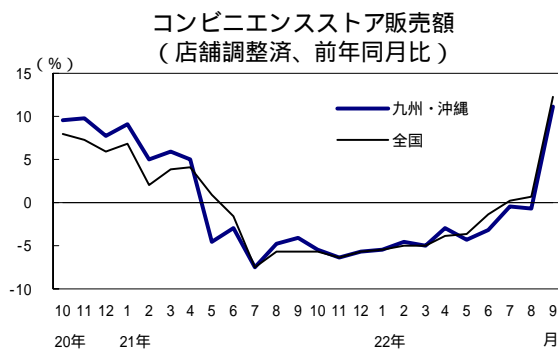
(前年同月比、%)

	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	6.6	4.8	4.5	2.5
百貨店	7.4	4.4	5.0	3.8
スーパー	6.1	5.0	4.2	1.7
乗用車	21.0	23.8	23.9	6.2
景気ウォッチャー	35.6	42.4	46.8	44.8

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済、九州・沖縄地区。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

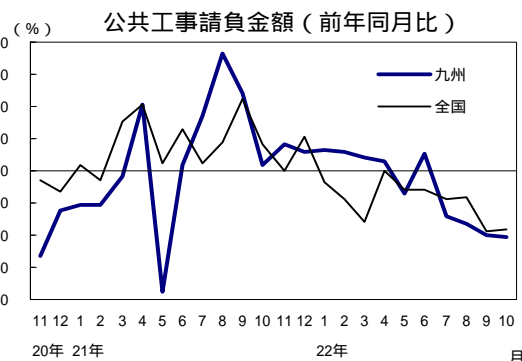
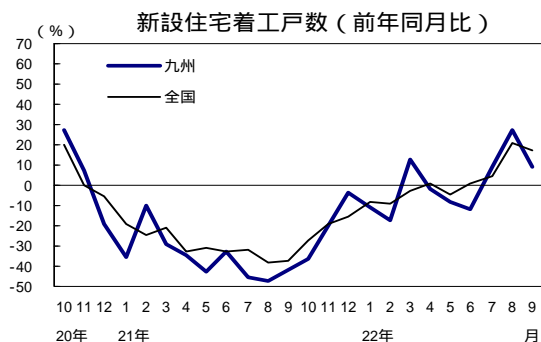
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

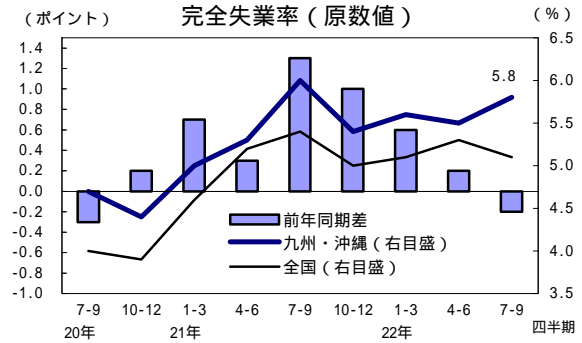
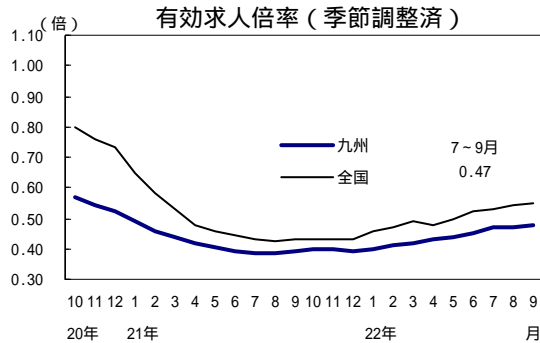


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

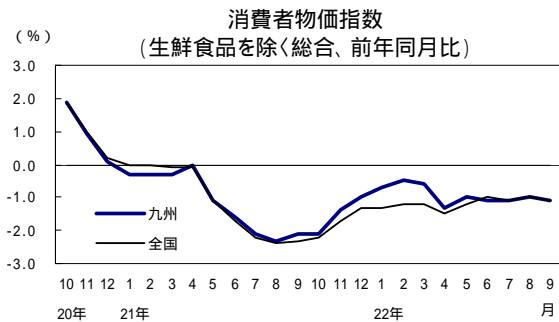
「新聞広告での求人は、先月比、前年比とも改善している。ただし前年がかなり厳しいかったこともあり、必ずしも良くなったとは言い難い（新聞社[求人広告]）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額はともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月	10月
倒産件数	249	215	182	222	59
(前年比)	31.6	19.2	35.7	8.3	24.4
負債総額	485	424	259	445	258
(前年比)	74.7	61.7	74.8	6.4	143.5



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・エコポイント対象商品に付与されるポイントが12月から半減するため、エコポイント特需で市場は活発になっている。テレビに加えて、冷蔵庫の動きも良い（家電量販店）

<先行き>

・年を越せば、エコカー購入補助金制度終了の記憶が薄れ、客の動きは良くなる（乗用車販売店）

